

陽風園だより

2010年9月
第59号

発行 社会福祉法人陽風園 金沢市三口新町1丁目8番1号 ☎ (076) 263-7101

陽風語録

「してやった」から不満がおこる

「していただいたから」感謝が生まれる



9月2日 金沢市消防技術競技大会
(県営まめだ簡易グラウンドにて)

学ばざれば便ち老いて衰う

理事長 奥清

多くの方が今日も陽風園を利用して下さいます。有難い事です。その方々を介護する職員の数が五百二十余名、よく勤めよく働く姿を日々見詰めて頼もしく大きな期待を寄せております。それだけに、これから的人生に敢て一言励ましの言葉をおくります。

今後的人生は楽しい事ばかりではありません。幸せな事ばかりとも限りません。むしろ苦しい事や厳しい事の方が多いかもしません。でも怯んではなりません。悩んでも解決できません。それに耐え忍んでこそ人生の味を濃くし人間的に大きく成長できるのです。

そんな経験を一つ二つと積み重ねるうちに、相手の立場を考え心の痛みを読み取れる人に成長するのです。辛くとも厳しい勤めに敢えて挑戦する事により、日々の歩みを大切にし自分に厳しさを求め、相手の過ちは許しても自分の過ちは許さず、自分の苦しみには耐えても相手の苦しみは見逃さない：そんな人材へと伸びていくのです。

ここで、皆さんの大成を念じ、中国南宋の時代の大学者朱熹（字は元晦）の「勸学の文」をおくります。心に宿して戒めの言葉とし、各自の人格形成に活かし、崇高な福祉の使者として努力を重ねて欲しいと期待しています。

謂う勿れ 今日学ばずとも 而も来日有りと
謂う勿れ 今年学ばずとも 而も来年有りと
嗚呼老いぬ 是誰の愆ぞや
日月逝きぬ 歳我と延びず

朱熹の勸学の文です。前半は怠惰を戒める言葉であり後半は悔恨の言葉です。日月は過ぎ去り歳は私を待つていてはくれなかつた。ああ空しく老いてしまつたのは一体誰の愆であろうか？全て己の怠慢の罪である：と、大学者朱熹にしてこの悔いがあることを思うと、われわれ凡人以つて銘すべき言葉です。

生活保護受給者増が止まらない

三陽ホーム施設長 吉川 公望

生活保護制度の目的は、健康で文化的な最低限度の生活を保障するとともに自立の助長を図ることです。自立助長推進のため、平成17年度から自立支援プログラムが導入され、各自治体においては、受給者の状況に応じて、経済的自立、社会生活自立、日常生活自立を目指すためのプログラムを策定・実施し、被保護者の自立支援に取り組み、一定の成果をあげきました。

しかし、平成20年後半からの世界的不景気を機に、生活保護受給者が増え続け、福祉事務所のケースワーカー（CW）の負担が増えて受給者の自立を助けられないため、生活保護から脱出できないケースも多く見られます。これに対し、様々な取り組みがみられます。

釧路市では、基幹産業が衰退し、有効求人倍率は0・32。千世帯当たりの生活保護受給世帯は50世帯で、全国平均の3倍。CW一人当たり約80世帯弱を担当しています。働く人も長期間の失業状態の中で就労意欲が

落ち、就労先は簡単に見つからない。そこで週1回、4時間程度働く『中間的就労』で、社会的な関係を取り戻すよう努力しています。しかし、数少ない受け入れ者は「多少の効果はあるが、本格的に受け入れる余力はない」という。景気低迷で雇用が増えず、完全自立は難しい。福祉事務所主幹は「今の景気で雇用を前提とするのは無理です。中間的就労が働き方の一つになるかもしない」。

しかし、受給者が働く意欲を出すのは簡単でなく、いかに居場所を作り、生活基盤を支えるかが問われています。『外に出られるなら働けるはず』と考えるのは役所的発想です。』といふ。国のモデル事業で年間千三百万円の事業費補助がもらえたが、受給世帯は増え続けるなど悩みが多いとのこと。一方、受給世帯は子の教育を考える余裕がなく、子を育てる環境ない家庭もあり、高校に進学して生活していく学力を身につけるためにボランティア等が勉強会を行うなど、貧困の悪循環に対するための重複障害者は適応していない重複障害者を受け入れるなどの役割を担つて

策として、受給世帯の子の自立を図る長期的な取り組みをする所もあります。

あるCWは「自立援助は2割。やりたいくどできない」という。

CWひとりの担当受給世帯数は、やりたいくどできない」という。

市区町村の福祉事務所で80、都道府県の事務所で65が法律上の標準となっていますが、100世帯越えの福祉事務所があると

も聞く。こんな折、行政が財政難を理由に給付申請者を門前払いする『水際作戦』や、狭い部屋に受給者を押し込み、生活保護の住宅扶助費分の利用料を取る『囲い屋』と呼ばれる貧困ビジネスが話題になりました。

また、近年日本の貧困構造が変わり、生活保護世帯の半分が高齢者です。高齢者の生活費である年金の受給額は平均5万円前後と少なく、生活が困難。今後さらに高齢化が進むので、益々増加が予想される他、母子家庭が増えたことや、ニート世代・50代のリストラ世代の存在などがこれに続きます。

生活保護施設では退院促進等の受け皿として居宅での生活が困難な精神障害者の受け入れや、障害別に機能分化された施設には適応していない重複障害者を受け入れるなどの役割を担つて

きているほか、近年は社会生活に対応できないため、地域での生活が難しく、施設に入所せざるを得ない者（ホームレス、アルコール・薬物依存、DV被害者等）の受け皿としても機能しています。また、居宅生活が一時的に困難に陥った場合の『シヨーツステイ事業』を行う地域もあります。

今年4月、厚労省は現在の生活保護受給者数をはるかに超える229万世帯が生活保護水準以下の所得で生活していると推測し、7月20日～8月5日には中央最低賃金審議会の小委員会で、全国平均15円アップしたが、最低賃金で働くよりも生活保護での収入の方が多い『逆転現象』が一部の都道府県で起きているとする結果も公表されました。

そんな中、インターネット上には『生活保護水準以下でワーキングプラーをする必要はない。今すぐ、申請書を持って、役所へ駆け込むのだ!』などと書き込まれるなど、中途半端に働くよりも生活保護を受けた方がよいという雰囲気が漂っています。行く末が心配になるとともに夕張市の財政破綻を思い出してしまいました。

速い景気回復が望まれます。

園だより

施設だより

全国社会福祉軟式野球大会 6年連続出場決定！

投げては先発投手が相手打線を2安打に抑えた好ゲームでした。

第二試合

第28回全国社会福祉軟式野球大会の北陸予選大会が6月28日（月）金沢市民野球場で開催されました。

朝から降り続いた雨も午前中には上がり2試合が行われました。

第一試合では、セーナー苑（富山県第二代表）を9対1で退け、代

表決定戦の、めひの野園（富山県第一代表）に5対1で勝利し6年連続7回目の優勝を果たしました。

全国大会は予選を勝ち抜いた16チームが9月7日から北海道帯広市で開催され日本一を争います。

第一試合
セーナー苑との試合は、初回に5点を先制し、有利な展開となりました。その後得点を重ね相手を圧倒。長短6本のヒットで大量9点を奪い5回コールドで勝利しました。



向陽苑運動会

向陽苑では、毎年6月に苑の行事として運動会を行っています。

今年も6月16日（水）に赤白のチームに分かれて「頑張れ！」と大声援の中、熱戦が繰り広げられました。

プログラムは

・ラジオ体操（準備体操）

・洗濯物リレー

・お玉リレー

・赤白玉入れ

・借り物競争

・パン食い競争

・全員参加のボール送り

赤白玉入れでは、スタートの笛

が待ち切れずに、2度のやり直しがありました。リレーでは一生懸

命、頑張つて走る姿に、

職員は感動しながらも、

苑の運動会も、その中の一つとして、楽しい時間だった

と思つていただけるような行事になればと思つています。

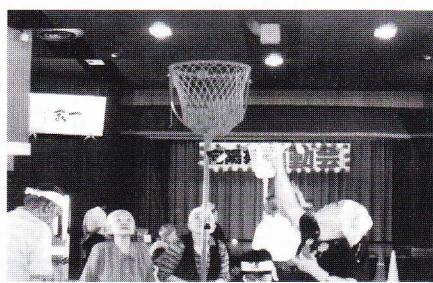
また来年、より多くの方に参加していただき、沢山の方の元気な姿と笑顔で一杯になるように「ガンバルぞ!!」



場者の中には今年の10月に、石川県で開催される「ねんりんピック石川2010」に出場できるのは：と思うほど活躍された方もいらっしゃいます。最終競技のボル送りでは、車椅子の方も全員参加し大いに盛り上りました。

今年の運動会は、大接戦の末、赤白同点になり全員での「万歳三唱」で無事に幕を閉じました。

誰の中にも、运动会の思い出があると思います。子供の頃、家族として、会社や町内会の運動会。



施設だより

万陽苑

海風浴ドライブ

万陽苑デイサービス

保育園児との交流

第二万陽苑

納涼祭

陽風園日誌

5月

理事会・評議員会

(陽風園)

内川たけのこ祭り

(第三)(ハビリ)

菊川・内川・十一屋・つつじが丘健康づくり教室

(ハビリ)

花里地区介護教室・出づくりサロン

(地域福祉)

たけのこ尽くし(万陽・木越ディ)

(地域福祉)

風船バレー・ボール大会

(万陽)

春の行楽(日帰り)

(三陽)

ハイキング

(あけぼの)

親子遠足

(みづき)

茶話会

(万陽ディ)

日帰り旅行

(向陽)

北陸三県救護施設春季スポーツ大会

(三陽)

大正琴ボランティア・バラ園見学

(木越ディ)

赤トンボグループボランティア

(陽風園)

家族会・窓拭きボランティア(第二)

(ハビリ)

歯科検診

(みづき)

春の旅行

(第三)

野球観戦

(ハビリ)

第10回石川県障害者スポーツ大会

(ハビリ・あけぼの)

8月11日に海風浴ドライブへ行つてきました。行先は昨年同様に千里浜なぎさドライブウェイを走つて帰つてきました。

今年は梅雨明けからずっと猛暑が続いていますが、更に当日は台風4号の影響でフェーン現象となり、気温もこの夏最高となつてしましました。このため(残念ながら)下車はせず、クーラーの効いたバスの車窓から海を眺めて頂きました。

しかし! ギラギラと照りつけれる太陽に青い海! 渚で遊ぶ若者や子供たちの傍をゆっくりと走り抜けていくうちに、いつしか自分たちの若い頃や子育て等々の思い出話に花が咲き、車内も夏真っ盛りとなつていきました。ただひとつ心配なことが…。利用者の皆さんもビックリしておいでましたが、あんなに広かつた千里浜のドライブウェイが、車が交差するのがやつとまでに狭くなつていたのです。段々と浜が侵食されていると聞いていましたが、まさかこれ程とは思ひもせんでした。

何はともあれ、暑い夏の一時を楽しんで頂けたようです。

7月13日、あゆみ保育園年長児の訪問がありました。利用者の方々に伝えると、何かプレゼントがしたいとのことで、ティッシュケース作りをすることに決定。皆さん真剣に縫われ、心が込もつたティッシュケースが完成。

当時は元気一杯の園児。マイクが割れる程の大きな声の自己紹介に「ワー」という歓声。踊りに目を細め手拍子。童謡と一緒に歌う方。「孫の送り迎えをしどつたことを思い出した」「息子が一年生の担任で、こんな子達を教えとるがかなと思った」など。それぞれの思いがあふれた一時でした。折紙で作った蝉や、てんとう虫のプレゼントと小さな手を差し出す園児の手をしっかりと握る方。頭をなで、声をかけ方。お礼にと昔話をサプライズで用意して下さった方もおりました。子供達の「じつちゃんの手あつたかかった。シワシワやつた」という素直な表現、ほほえましい光景に、センター

8月4日、夏恒例の行事「納涼祭」が行われました。

今年は天候にも恵まれ、外で行うことができ、職員も浴衣や法被に着替えて納涼祭がスタートしました。舞台上では、末町青年会、内川婦人会、つつじが丘の皆様に、ひよいひよい太鼓、炭坑節、百万石音頭などを披露していただきました。夜店のメニューに、初めて焼きそばとチヂミを盛り合わせ提供させていたきましたが、好評でした。

定番のフライドポテトに加え、安全性を配慮してフランクフルトを棒なしにし、綿がしの割箸をステイック菓子で代用しました。仮装コンテストや職員の余興も楽しんで見ていただき、夜空に打ち上げ花火が咲き、閉会しました。

利用者の皆様には、太鼓の音や音頭、浴衣姿、夜店のメニュー、花火など、そして暑さによつて「夏」を体感し、楽しい時間過ごしていただけたようです。

施設だより

ハビリポート若葉

内川墓地公園除草作業

農耕班は、農作業以外に内川墓地公園の除草作業を請け負い、年3回行います。

展望台や墓域、イチヨウ並木など人目に触れる場所が主な担当区域です。

畠の作業と最も違うのは、明確な期限があるところ。特に第1回目はまるでジャンブル（大げさ？）のような状態を短期間で綺麗に仕上げつつ期限にも間に合わせなければならず、大変です。時には小雨の降るなか道具を着込んで作業に励み、時にはうだるような暑さのなか座り放しで手を動かし続けることもしょっちゅう。

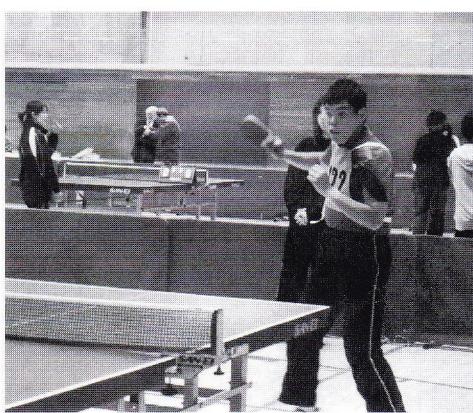
それでも皆さんは職員以上に忍耐強くアグレッシブ。気付けば遙か遠くに、ということしばしばあります。

当施設では高齢化が進んでおり、農耕班も当然無縁ではなく、メンバーや減少傾向にあることは否めませんが、屋外での活動を愛する人達がこれからも元気に活躍し地域に貢献してくれることを願つてやみません。

あけぼの作業所

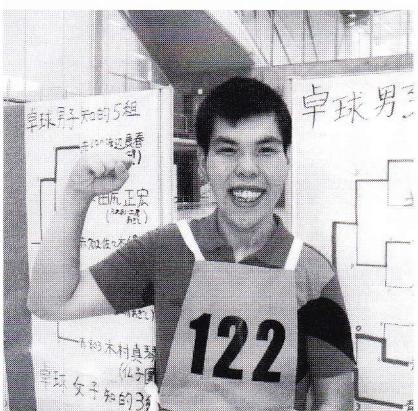
障害者スポーツ大会

5月30日に西部緑地公園陸上競技場をメイン会場として、第10回石川県障害者スポーツ大会が行われ、当作業所からは10名の利用者が、陸上・卓球・ボウリングの各競技に参加しました。



異なりましたが、皆さん競技が始まると一様に、普段とは違う活発で生き生きとした表情を見せ、結果へのこだわりよりも競技そのものを楽しんでいるようでした。

さて、今大会では山本雅照さんが輝かしい成績を収め、全国大会への切符を勝ち取ることができました。それ以外の選手たちも、帰りの車内で「すごい頑張つとったな」「最後にもう少し狙い通りにピンが倒れてたら勝てとつたぞ」などとにぎやかに互いの健闘を称えあう姿は特に印象深く、選手だけでなく私たち職員もスポーツの素晴らしさを改めて実感させられる一日となりました。



7月

金沢市長夏季見舞

園祭式典

模擬店

理事長と女性職員との懇談会

開設記念祭

(第一・第三)

園祭

(ハビリ)

未就園児とお父さんの遊ぼう会

(みづき)

ポップサーカス観覧

(向陽・二陽・ハビリ・あけぼの)

菊川・大桑・崎浦・内川・十一屋

つつじが丘健康づくり教室

(地域福祉)

花里地区家族介護教室

(ハビリ)

内川地区花いっぱい運動

(ハビリ)

民謡明悦会・円美会民謡ボランティア

(陽風園)

孟蘭盆法要

(陽風園・第二)

ゲーム大会

(万陽デイ)

納涼食事会

(三陽)

希望者旅行

(ハビリ)

全体レクリエーション

(三陽)

夕涼み会・プール遊び

(みづき)

海風浴・海風浴ドライブ

(ハビリ)

(陽風園)

作つて食べよう会

(第三デイ)

ランチ会

(第二・木越デイ)

納涼バーベキュー(三陽・あけぼの)

(万陽)

夏祭り

(ハビリ)

納涼祭

(ハビリ)

夏休みチャレンジ教室

(三陽)

（万陽デイ）

（ハビリ）

施設だより

みづき保育園

わくワーカー体験

事務局

池掃除

第59号

陽風園だより

3日間という短い期間だったのですが、中学二年生11名（内男子1名）が仕事とは、職場とはどのような所なのか学ぶためにみづき保育園を訪れました。

私が担当する4歳児ゆりぐみに入ってきた女子生徒は、とても緊張した様子で、子どもたちへの接し方もぎこちなく関わり方を探りしているようでした。一緒に遊んだり、絵本や紙芝居など読み聞かせたり食事を共にするうち、少しずつ距離が縮まつたようです。子どもたちが「お姉ちゃん！」と親しみを持ち始め、もつと仲良くなりたいなという頃にはお別れの日でした。最終日には中学生たちがお別れとお礼の会を企画し催してくれました。子ども達の憧れの眼差しがとても印象的でした。

子どもたちと最後の握手を交わし、一人ひとりの顔を見つめ、声をかけるその瞳と声は、3日前とは違ひ本当に優しく、子供に寄り添った姿でした。保育士という職業の素晴らしさを体感してくれたように感じました。



入園者の変動状況（5月～7月）

施設名	入園者数 (8月1日現在)	入所	退所
向陽苑	239	7	8
万陽苑	180	30	24
第二万陽苑	149	21	24
第三万陽苑	148	20	14
三陽ホーム	101	2	2
ハピリポート若葉	205	2	0
あけぼの作業所	41	1	2
みづき保育園	181	3	2
診療所	14	21	22
合計	1,258	107	98

在宅サービス利用状況（5月～7月）

施設名	事業	延人数
万陽苑	ショートステイ	279
	デイサービス	875
	ホームヘルプサービス	396
	配食サービス	389
	移送入浴サービス	10
第二万陽苑	ショートステイ	387
	ホームヘルプサービス	338
第三万陽苑	ショートステイ	883
	デイサービス	595
ハピリポート若葉	ショートステイ	33
	日中一時支援	3
	グループホーム知的障害者共同生活援助事業	1,288
	陽風園生活支援センター	929
在宅事業推進局	お年寄り地域福祉支援	1,125
	センターみづきしんまち	692
	介護相談	862
	木越デイサービスセンター	103

感謝録

5月～7月

(順不同・敬称略)

ボランティア

赤トンボグループ
キリスト教会

P.L.金沢南教会

金沢美生会

浅田あきら一座希望の会

内川小中学校

民謡明悦会・円美会民謡

カンタビーレ・かすみ

あゆみ保育園

木越フラダンスサークル

北陸学院中学校

石川県美容業環境衛生同業組合

第二万陽苑家族会

神社　由美（金沢市）
中村由紀子（金沢市）
中本　章子（金沢市）
小林真智子（金沢市）
中田　進（白山市）
平野　孝司（金沢市）
村澤　勇二（金沢市）
小野　陽子（金沢市）
浅田

寄附金の部

崎浦地区町会連合会

中村　清（北海道）
東藤　登（野々市町）
庄田　邦彦（能美市）
米田かずえ（能美市）

(金沢市)

中　田　進（白山市）
東　藤　登（野々市町）
庄　田　邦彦（能美市）
米　田　かずえ（能美市）

寄附物品の部

フードバンクいしかわ
はなの木薬局

石川県金沢城 兼六園管理事務所

(金沢市) (金沢市)
(株)サンライン

その他匿名
二十八名

ご厚意ありがとうございました。

金沢市企業局

(金沢市) (金沢市)
(株)鶴商

夏嶋　正征（金沢市）

